様式第２号

平成２７年度　　独 創 的 研 究 助 成 費 実 績 報 告 書

平成２８年３月２８日

<table>
<tr><td>申　請　者</td><td>学科名</td><td colspan="2">看護学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td colspan="2">岡﨑　愉加</td></tr>
<tr><td>調査研究課題</td><td colspan="8">助産師と養護教諭の連携による性教育～高校文化祭を利用した体験型集団指導の効果と課題～</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査研究組織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所属・職</td><td colspan="2">専門分野</td><td colspan="2">役割分担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>岡﨑愉加</td><td colspan="2">保健福祉学部看護学科・准教授</td><td colspan="2">助産学・母性看護学</td><td colspan="2">研究計画・データ収集・分析・発表・論文作成</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>調査研究実績の概要</td><td colspan="8">【目的】
本研究は、助産師と養護教諭が連携して、高校文化祭を利用した性教育の体験型集団指導を計画・実施し、その効果と課題を明らかにすることを目的とする。

【方法】
養護教諭・助産師・助産師課程履修学生と共に、思春期の子どもを取り巻く性の現状と問題や課題、最近の性教育の動向について文献等で調べ、体験型集団指導のプログラムを作成した。指導内容は、妊婦体験・育児体験・デートDV・SNSの使い方・避妊・性感染症予防とし、平成27年9月に開催されたA県B高等学校の文化祭において、教室を借り、性教育の体験型集団指導を実施した。
指導内容の効果の評価は、性教育の体験型集団指導コーナーへ参加した高校生104名（B高等学校以外の生徒を含む）を対象とし、無記名自記式質問紙調査を行った。倫理的配慮として、生徒が会場を出る前に説明し、回答用紙の回収ボックスへの投函を同意とした。計画・実施に関する評価は、性教育の体験型集団指導の計画・実施に参加した養護教諭・助産師・助産師課程履修学生ら10名を対象とし、自由記載の無記名自記式質問紙調査を行った。倫理的配慮として、体験型集団指導終了後に説明し、回答用紙の提出を同意とした。なお、本研究は岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】
1.対象の概要
女子76人73.1%、男子28人26.9%。
高校1年生49人47.1%、2年生12人11.5%、3年生43人41.4%。

2.参加のきっかけ
教室前で声をかけられた44人42.3%、通りすがりに何となく24人23.1%、一緒にいる人が入ったから12人11.5%、友人から聞いて11人10.6%、先生から聞いて3人2.9%、前にも入ったことがある3人2.9%、プログラムを見て1人0.9%、その他16人15.4%。

3.体験コーナー
妊婦体験は、興味が持てた37人35.6%、理解できた50人48.1%、自分も母親のお腹の中で育まれたと思った14人13.5%、いのちは大切と思った35人33.7%。
育児体験は、興味が持てた37人35.6%、理解できた45人43.3%、自分も世話をしてもらって育ったと思った29人27.9%、いのちは大切と思った27人26.0%。
デートDVは、興味が持てた30人28.8%、理解できた55人52.9%、得た知識を役立てたい27人26.0%、自分でも調べてみようと思った5人4.8%。
SNSの使い方は、興味が持てた20人19.2%、理解できた55人52.9%、得た知識を役立てたい24人23.1%、自分でも調べてみようと思った10人9.6%。</td></tr>
</table>

次頁に続く

	避妊は、興味が持てた23人22.1%、理解できた58人55.8%、得た知識を役立てたい21人20.2%、自分でも調べてみようと思った8人7.7%。 性感染症予防は、興味が持てた21人20.2%、理解できた55人52.9%、得た知識を役立てたい23人22.1%、自分でも調べてみようと思った8人7.7%。 4.得た知識の伝達 　友人79人76.0%、彼氏や彼女18人17.3%、親など保護者12人11.5%、兄弟姉妹5人4.8%。 5.指導者についての評価 　優しかった75人72.1%、わかりやすい説明をした72人69.2%、話しやすかった44人42.3%、気分を盛り上げてくれた17人16.3%。 6.総合評価 　楽しかった67人64.4%、参加しやすい雰囲気だった63人60.6%、来年も参加したい8人7.7%、待ち時間が長い1人0.9%。 7.リフレクション 　効果としては、教室前の声かけなどがあがった。課題では、一度に多人数が参加してきたときの対応などがあがった。 【考察】 　参加者の7割以上が女子であった。B高校以外の参加者もいたが、B高校の在校生は女子の方が多いことが影響していると考えられる。参加のきっかけとしては、教室前で声をかけられたが最も多かった。リフレクションでも声かけの効果があがっていることから、積極的に参加を促すことが重要であり、今後は声かけの手法についても事前準備が必要と考える。デートDV・SNSの使い方・避妊・性感染症予防では5割以上が理解できていたが、得た知識を役立てたいは2割を超える程度であった。集団指導の場は文化祭の催しの一つであるため、すべてのコーナーを体験せずに去る生徒がいること、行動の変容を促すまでとなると今回は内容が多すぎたことが要因と考えられる。一方、得た知識の伝達では、友人と彼氏や彼女を合せると9割以上の参加者が同年代に伝えたいと思っていたことから、正しい知識を広めることに関しては効果があったと考える。以上より、今回実施した高校文化祭を利用した性教育の体験型集団指導は、高校生に正しい知識を与えることと、正しい知識の普及には効果があったが、行動変容に向けての意識改革までは至らなかったことがわかった。今後は、指導内容の精選と実施体制の強化が課題である。 【研究の今後の課題】 体験型集団指導の計画・実施に参加した養護教諭・助産師・助産師課程履修学生等のリフレクションについてより詳細な分析をして、次年度以降の取り組みに活用したい。